

福島県特別支援教育振興会

いわき支部

会報

第 32 号

発 行 者
 福島県特別支援教育振興会
 いわき支部長 大 谷 明

事 務 局
 福島県立平支援学校
 いわき市平上平窪羽黒40-45
 〒970 TEL(0246)24-2501
 -8001 FAX(0246)23-5135
 ホームページ <http://sep-iwaki.com/>

共に学び共に生きる場を目指して

福島県特別支援教育振興会 いわき支部長 大 谷 明

振興会会員の皆様には、現下の生活・お仕事等に押し寄せている諸般の深刻な状況を克服しながらお暮らしの事と拝察しております。子供さんたちはなんとか元気に学校生活を続行しているのでしょうか。

今や自然災害が続出し列島各地を襲い、新型コロナウイルスは相変わらず感染の危機が私たちに多くの制限をとらせ、国際的な戦乱は人々の生活・生命を破壊し子供たちにも厳しい日常を強いております。あのオリンピック・パラリンピックでさえ開催・運営・支援等の中で選手や青少年、国民に無念の思いを与えております。いわゆる多様な事態でパンデミックが世界を覆っているかのようです。

そのような状況の中で、世界、人間、自然との人としての在り方が厳しく問われ、「繋がる」「絆」「寄り添う」として様々な場面で次世代への「責任」としてどう果たしていくかと問われております。

その事例は様々ですが障がいのある子供たちの生活、学習、将来、仕事、そして生きていく「場」を考え、社会、企業、生活再構築や相互の安全安心・保障、支援等が社会の中でどう活動され、構築されていくのか試みられてもおります。

その具体的な事例を見ていくと、例えば本県の第7次福島県総合教育計画での地域社会での社会貢献活動の中での特別支援学校の児童生徒の学びや体験、学校における震災学習の実施とそれを踏まえた発展学習や支援教育の学校の教育の在り方、そのための人員と機能・配置や施設設備等の充実、そして最近の特別支援学校を含めた新設学校増配置へのきめ細やかな展開方法、教育内容方法の充実、インクルーディング教育の在り方、特に地域の実情を踏まえた柔軟な学習体制等の構築、更には国連障害者権利委員会からの危惧として出された文科省の特別支援教育に関する通知の撤回を求めている件等もまた重要な課題ではないかと思えます。

これらのような課題を踏まえつつ、特別支援教育振興会いわき支部においても、それらの研究等を進めながら今後の振興会の在り方の考察を会員各位のご意見等をいただきながら考えて参りたいと思えます。

以上雑多に書き連ねてしまいましたが、本年度の残された諸用務と来年度への業務の推進に努め、会員皆様のご協力をお願い申し上げてご挨拶といたします。よろしくお願い申し上げます。



いわき支援学校創立 40 周年寄贈品贈呈式

各学校の紹介

いわき支援学校

本校は、いわき市平上神谷地区に位置し、知的障がいのある児童生徒が学ぶ通学制の特別支援学校です。小学部92名、中学部51名、高等部97名の児童生徒が在籍し、今年度は、創立40周年を迎えます。「自ら考え学ぶ人」「心ゆたかな人」「じょうぶな人」の教育目標のもと、児童生徒一人一人の能力・特性に応じ、自立と社会参加を目指して、授業づくりや学校行事、体験活動の充実に取り組んでいます。また、分校のくぼた校とも連携を図りながら、教育活動を進めています。

本年度も新型コロナウイルスの影響がありましたが、これまで以上に児童生徒が充実した学校生活を過ごせるように、様々な工夫や感染防止対策を行いながら学習活動を行っています。

小・中学部は10月22日、高等部は10月29日に「風と雲のまつり」を行いました。ステージ発表や作業学習製品展示・販売を行いました。小学部は、高学年が「宿泊学習と修学旅行」、中学部が「おむすびころりん」、2学年「ももたろう」、1学年「おべんとうばす」を発表しました。日々の学習や発表に向けての学習を積み重ね、小学生らしい元気いっばいの演技を発表することができました。

中学部は、「輝け、いわき支援スマイル」をテーマに、作業学習や作業製品販売について紙工班、クラフト班、家庭班の3グループに分かれて発表しました。各班とも、作業学習の様子や作業製品についての説明を、趣向を凝らして発表しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、分散型ではありましたが保護者に向けての作業学習製品販売も大変にぎわいました。

高等部では、「今のこの時代をみんなで乗り越えよう～風雲2022～」をテーマに、「風と雲のまつり実行委員会」の生徒達を中心となってオープニングやフィナーレを行うなど、企画運営を行いました。ステージ発表と作業学習製品の販売や実演を行いました。ステージ発表では、本校40周年を祝う「よさこい」など学年ごとのステージ発表やフラダンス部の華麗なフラダンスが披露されました。各作業班の実演では、日々の作業学習の成果を発表することができました。実行委員の生徒たちが主体となって開催され高等部らしい「風と雲のまつり」になりました。

本校ではキャリア教育と進路指導の充実に努めています。中学部や高等部では、地域の様々な企業や福祉事業所の御協力を得ながら、校外での産業現場等における実習を行い、将来の生活に向け、仕事への考え方や取り組み方、そして地域の方々との共働生活について学んでいます。

今年度も、本会からの助成金は、各学部の教材・教具の充実に活用させていただいています。いわき支部の皆様、本当にありがとうございます。



いわき支援学校くぼた校

いわき支援学校くぼた校（以下、「くぼた校」という）は、東北及び県内で初めて高等学校内（勿来高等学校内）に設置された高等部のみの特別支援学校（知的障がい）として開校し、今年度で8年目となりました。福島県が目指す「地域で共に学び共に生きる教育」の推進に向けて、勿来高等学校や地域の皆様からの御協力や御支援をいただきながら、日々の教育活動を行っています。

くぼた校では、10月8日（土）に福島市のとうほう・みんなのスタジアム（あづま総合運動公園）を会場として開催された「第21回福島県特別支援学校スポーツ大会」に学校行事として参加しました。大会に向けて、1学期末から本格的に練習を始め、各種目に分かれて継続して練習を重ねることで力をつけてきました。また、2学期に入ってからにはクレハグラウンドをお借りしての練習会を実施するなど、大会に向けて練習を重ねてきました。大会当日は新型コロナウイルス感染症対策のため様々な制限がかかり、観客を制限しての開催となったほか、友達への声援を送ることはできませんでしたが、拍手で選手の後押しを行いました。これまでの練習の成果を発揮し、くぼた校は陸上競技において男子ソフトボール投など3種目での優勝、フライングディスク競技の個人アキュラシー5m競技において1名の優勝をはじめとして、両競技を合わせて計16種目での入賞を果たしました。また、多くの生徒が自己記録を更新したり、自己記録に迫る結果を残したりすることができました。

今年度は「第21回福島県特別支援学校スポーツ大会」に係る大型貸切バスの代金として、本会からの助成金を当てさせていただきました。生徒たちは、この大会のためにこれまで練習を重ねて臨んでいたこともあり、良い思い出となったようです。いわき支部の皆様には、これまでの御協力や御支援に改めて感謝申し上げます。今後とも様々な場面で御支援をよろしくお願いします。



平支援学校

本校は、平上平窪地区にある、肢体不自由のある児童生徒のための特別支援学校です。現在、小学部 30 名、中学部 32 名、高等部 23 名、計 85 名が在籍し、保護者の送迎や公共交通機関・スクールバス等で自宅から通学する児童生徒、寄宿舎を利用して通学する児童生徒、隣接する福島整肢療護園から通学する児童生徒がいます。また、市内小名浜野田にある国立病院機構いわき院内の「病院訪問学級」や家庭にうかがって授業を行う「家庭訪問学級」など、各々の状況に応じた形態での学習を通して『明るく 正しく たくましく』の学校目標のもと、個々の能力や特性に応じて、そして卒業後の自立と社会参加に向け、日々学習活動に励んでいます。また、校内において7名の看護師が配置され、経管栄養や痰の吸引等の、医療的ケアの必要な児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全を徹底しています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、対策を施しながら校外へ出かける活動を実施いたしました。小学部では、3年ぶりに修学旅行を猪苗代方面にて実施しました。体験的な活動を生き生きとした表情で取り組み、様々な経験をすることができました。中学部では、修学旅行で那須・日光方面へ行き、オルゴール作りやおせんべい焼き体験をしてきました。高等部では、ふたば未来学園高等学校、いわき支援学校との交流を2年ぶりに対面で実施し、互いの顔を見ながら活動することができました。3年ぶりに修学旅行を須賀川・会津方面で実施し、空港博物館見学、プラネタリウム鑑賞、あかべこ作りなどの体験をしました。また、作業技能大会や特別支援学校スポーツ大会などへの参加を通して視野を広げていくことを心がけ、直に体験できる機会を作りました。

本校では本会からの助成金を災害時備蓄品、学習教材、卒業式装飾の花代に使わせていただきました。安心・安全、充実した学習活動に有意義に使わせていただいております



聴覚支援学校平校

聴覚支援学校平校は、浜通り地区唯一の聴覚障がいのある幼児児童が在籍する特別支援学校です。平校はいわき市平馬目地区にあり、今年で創立 116 年目を迎えました。幼稚部と小学部が設置されており、今年度は、幼稚部 3 歳児学級に 4 名の新入生を迎え 11 名(幼稚部 7 名、小学部 4 名)の幼児児童が学んでおります。中学部や高等部は、福島県内では聴覚支援学校(郡山市)に設置されています。

平校は、幼児・児童の学力・言語力、そして生きる力の育成を目指し、ことばの指導の充実を取組の一つに掲げています。今年度の活動として、10月29日(土)に、学習発表会「平ふくろう祭」を実施しました。当日は、保護者や旧職員、学校関係者の方々に来校していただき、学部ごとに日頃の学習の成果を発表しました。

幼稚部は、劇「おむすびころりん」の発表でした。子どもたちは、絵本やパネルシアターで「おむすびころりん」のお話に親しみながら、教室やステージで手話や台詞、動きの練習を重ねてきました。また、劇で使うバック幕の色付けも行いました。当日は、衣装を着た子どもたちが、台詞のやりとりやダンス交えて元気に発表することができ、会場から多くの拍手をもらいました。

小学部は、1学期の総合的な学習の時間で行った「平校商店街」の学習の成果を生かし、「秋祭り」として、会場に学年ごとの屋台を作りました。お客様に楽しんでいただこうと、学習の中で子どもたちが内容を考え、準備を進めてきました。当日は、プレゼンテーションのあとお客様に手作りの屋台を楽しんでいただき、たくさんの笑顔があふれる時間になりました。

今年度も、本会からの助成金を平ふくろう祭の教材・教具等に活用させていただきました。今後とも会員の皆様のご支援ご協力をよろしくお願ひします。



温かいご支援をいただき、ありがとうございました。

令和4年度 一般会計歳入歳出予算書

歳入総額 1,381,193 円
歳出総額 1,381,193 円
差引残高 0 円

1 歳入の部 1,381,193円

Table with 7 columns: 款, 項, 目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Rows include 会費収入, 積立金取崩, 諸収入, 繰越金収入, and a total row.

2 歳出の部 1,381,193円

Table with 7 columns: 款, 項, 目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Rows include 会議費, 負担金, 補助及び交付金, 事務費, 積立金, 予備費, and a total row.

- 3 差引残高 0円
4 支部長の承認を得て科目間の流用を認める。
5 特別会計残高 100,000円

令和4年度 福島県特別支援教育振興会 いわき支部役員名簿

- 顧問: 長谷川浩一, 青木 稔, 諸橋 義隆, 渡辺 敬夫, 小野 哲司
支部長: 大谷 明
副支部長: 塩 俊明, 矢吹 美良, 布谷 美紅
監事: 新妻 由美, 富岡幸夕里
理事: (平方部) 小野寺典子, (小川・川前方部) 鈴木 茂信, (社団法人いわき市医師会) 菅野美恵子, (福島県立いわき支援学校) 菅野美恵子, (福島県立いわき支援学校くぼた校) 加藤 賢一, 岡澤 淳, (福島県立聴覚支援学校平校) 佐藤 浩士, (福島県立平支援学校) 柳沼 哲

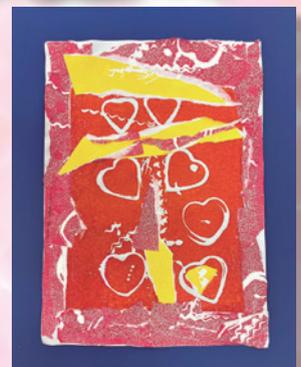
幼児児童生徒作品紹介



「第5回福島県障がい者芸術作品展」 「きになるひょうげん 2021」 審査委員賞 (日比野克彦賞) (無題) 小学部6年 田仲 悠真



糸掛け曼荼羅『すいこまれる太陽』 高等部3年 S.A



『まっ赤な実、たべたら甘いかな?』 高等部2年 矢部鷹磨呂



「実りあれ! 現場実習」(国語科) 高等部2年 山野邊彩夢



絵画「つなひきをしたよ」(総合活動) 幼稚部5歳児 横須賀愛菜



貼り絵「ほくたちの秋祭り」(図工科) 小学部3年 齋藤 琉翔